



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第4号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第4号). 泌尿器科紀要 2002, 48(4): 258-258

ISSUE DATE:

2002-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114721>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

今年も泌尿器科学会総会が慶応大学村井教授のもと東京で開催された。ここ数年、総会でのシンポジウムやパネルディスカッションなどを開いていると、若い先生がたの発表や討論が徐々に洗練されてきたと感じる。EBM 的な考えかたが要求されるため、必要とされる情報の質と量を厳選して内容を組み立てているためであろうと思われる。発表の態度も洗練されてきた。PC の発達でプレゼンテーションの手法自体が良いものになったことも一因だが、良く練習された小気味良い発表が多くなってきたのは事実である。

あたりまえのことだが、プレゼンテーションは自分の考えを他人に理解してもらうために行うもので、そのスキルは科学者にとって非常に重要である。ある時にプレゼンテーションスキルのプロから「良いプレゼンテーションを行う上で最も大切なものは何か」と質問されたことがある。「内容」「話術」「聴衆」などの選択肢から選ぶのであるが、答えは「聴衆」であった。どのような聴衆が対象であるのかをはっきり意識してプレゼンテーションせよということであった。いくら内容のすばらしい発表でも、聴衆に理解してもらえなければ何の意味もない。同じ内容の話でも、聴衆が専門家である場合と一般市民である場合とでは全く異なったプレゼンテーションになるはずである。これは臨床における患者さんとのコミュニケーションにも通じるものがある。

時間を守ることも大切なマナーである。(私はスライド1枚につき平均1分が内容を理解してもらう限界だと思っている。) 時間を上手に利用した理解しやすいプレゼンテーションは聞いていても楽しい。最後の味付けは発表内容に対する演者の情熱である。

(小川 修)

泌尿器科紀要 第48巻 第4号 2002年4月25日 印刷 2002年4月30日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta_uro/index.html

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
